

【必修科目(40時間)】

形態	教科名	時間数	目的(学習の目標)	内容
講義	失語症概論	2	失語症の原因、症状、コミュニケーション方法の種類、生活状況等を知り、失語症に関する基礎知識を会得する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原因、症状、タイプ</li> <li>・類似の障害との差異</li> <li>・日常生活、社会生活への影響</li> <li>・心理的側面への影響</li> <li>・失語症のリハビリテーションの概要</li> <li>・コミュニケーション方法</li> <li>・地域生活の状況</li> </ul>
講義	失語症のある人の日常生活とニーズ	1	失語症者の日常生活における困難と、支援ニーズを、具体的に理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・失語症者による体験談</li> <li>・失語症者の生育歴・障害歴</li> <li>・日常生活における困難</li> <li>・必要としている支援</li> <li>・会話の実例(失語症者でも、サポートがあれば会話が可能であることを理解してもらう)</li> </ul>
講義	意思疎通支援者とは何か	0.5	失語症者の抱える困難や支援ニーズを踏まえ、意思疎通支援者の役割と支援内容を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対人支援とは何か</li> <li>・意思疎通支援者の役割</li> <li>・基本的な支援内容</li> </ul>
講義	意思疎通支援者の心構えと倫理	0.5	意思疎通支援者としての失語症者への関わり方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心構えと倫理(対等性、自己決定の尊重)</li> <li>・適切なコミュニケーション態度(受容・共感等)</li> <li>・守秘義務</li> </ul>
講義	コミュニケーション支援技法Ⅰ	4	失語症者とコミュニケーションを取るために必要な、基本的な会話技術を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一対一の会話場面を想定し、以下のような意思疎通支援に係る技術(道具や絵の利用等も含む)を理解・習得する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>-理解面を補う会話技術</li> <li>-表出面を補う会話技術</li> <li>-話の内容を確認する会話技術</li> <li>-話の要点を書き表す技術</li> <li>-適切な態度によるコミュニケーションの実践</li> </ul> </li> </ul>
実習	コミュニケーション支援実習Ⅰ	18	失語症者とコミュニケーションを取るために必要な、基本的な会話技術を習得する。	※会話サロンのような場での実習を想定
講義	外出同行支援	1	失語症者が外出先で困難を感じる場面を具体的に想定し、意思疎通を促進するための技術を理解する。	
実習	外出同行支援実習	8	外出時の基本的な意思疎通支援技術を習得する。	・意思疎通支援を行う場面を具体的に想定し、必要な技術を理解・習得する。(買い物、役所での手続き等)
講義	派遣事業と意思疎通支援者の業務	1	失語症者向け意思疎通支援者派遣事業の運用の運用の仕組みやルールを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の概要</li> <li>・依頼から派遣までの流れ</li> <li>・トラブル発生時の対応等</li> </ul>
講義	身体介助の方法	2	外出時に身体介助を安心・安全に行うための基本的な技術を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外出時に必要な、身体介助(特に片麻痺の方向け)と声の掛け方</li> <li>・階段昇降、椅子からの立ち上がり、装具や衣服の着脱、食事や排泄時の介助法等</li> </ul>
実習	身体介助実習	2	外出時に身体介助を安心・安全に行うための基本的な技術を習得する。	